

甲府一高あおぞら会 年報 2020

AOZORA

2021年2月28日発行(年1回発行) vol.6

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7

おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会

ホームページ <http://www.ymkp.net/aozora/>



2020年 実行委員会の活動

甲府一高あおぞら会会長 露木和雄

世界中をコロナ禍が跋扈^{ぼっこ}していますが皆様如何お過ごしですか。当会も昨年秋以降、Zoomによる実行委員会の開催など3密を避けて運営してきました。昨今、メディアではこのような状況だからこそ、フェイス^{けん}toフェイスの関係の重要性や人の絆の大切さを喧伝^{けんでん}しています。私もこのことについて感じたことがあります。当会への支援として一般の方を含め、現在300名を超える会員の皆様から年会費をいただいております。一高関係者でみると卒業年も昭和30年から平成9年に亘る幅広い年代の卒業生からのご支援です。この時代、3,000円の年会費は決して低廉ではないと思います。それにも拘わらず、何故このように多くの方々からのご支援がいただけるのかと考えた時「一高在校時の同級生の〇〇が関わっている活動だから彼(彼女)を信頼し支援する」という方が大勢いるのではないかと思います。これを思う時、私は当会を支援してくれている会員の信頼を裏切らない生き方をこれからもしていこうと、年の初めに思いを新たにしました。本年も当会へのご支援よろしく申し上げます。ご家族皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



あおぞら共和国の現状とこれから

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 専務理事 福島慎吾

昨年新型コロナウイルス感染症の拡大により、“あおぞら共和国”の利用を中止とさせていただきます。1月から3月までは、緊急事態宣言の前だったのでご予約をいただいていた利用者様は受け入れておりました。4月から6月の半ばまでは、既に予約をいただいていた家族へは残念ながら利用の自粛をお願いし皆さまにご協力いただけました。緊急事態宣言と他県への移動自粛が解除されてからは利用予約を再開しました。ですが、コロナ禍での再開でしたので、1家族単位でのみ利用を受付、団体や複数での利用は中止とさせていただきます。また、3棟のみの利用で、利用した棟は、3日間空けてからの予約再開となっています。ご利用者の皆様にご不便をお掛けしています。利用の制限がある中でも、皆さん“あおぞら共和国”の利用を楽しみにいただいていたことが運営側としては一番嬉しかったです。“あおぞら共和国”は皆様から必要とされていることを改めて実感いたしました。

新しいロッジ5号(重症心身障がい児者でも利用可能)を完成することが出来ました。今年度中に、山寺ロード(駐車場から5号棟まで)と仁志田ゲート、亡くなったこどもたちのメモリアル植樹の完成を目指しております。

新型コロナウイルス感染症の収束がいまだ見えませんが、“あおぞら共和国”はいろいろな利用制限を考へて運営しています。この事態が収束して皆さんがゆっくり“あおぞら共和国”を楽しんでいただける日が一日も早く来ることを願っています。

コロナ禍の難病ネットのキャンプやイベント

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク あおぞら共和国担当 青柳耕作

難病ネットでは、新型コロナウイルス感染症拡大により、毎年開催していた全国7箇所のキャンプが残念ながら中止となり、代わりに初めてのサマーキャンプ“がんばれ共和国”Webキャンプを開催しました。52家族55名のキャンパー、ボランティアを含め総勢約200名の参加です。◎キャンプを開催する上で、難病ネットは拠点を東京の事務所と“あおぞら共和国”に分かれて行いました。建国式から始まり、各キャンプからおひとりずつ、計7名の方に大統領を務めていただきました。◎午後の参加型プログラムでは“あおぞら共和国”の紹介や当日の現地の様子、笑顔の向こうに繋がる未来プロジェクト様に事前に撮影いただいた写真を使ったスライドの紹介もしました。◎視聴型のプログラムは、星つむぎの村によるフライング・プラネタリウムと、心魂プロジェクトのパフォーマンスを行いました。◎夜はZoomにて各キャンプより、それぞれのキャンプの紹介が行われ、八ヶ岳の星空鑑賞(曇りのため録画)をしました。◎2日目は、お子さん向けの遊びの時間や、お子さんの食事を作る時の参考になる内容で、録画の配信やリアルタイムのライブ配信も行い盛りだくさんなキャンプとなりました。今年の7~8月にかけて、コロナ感染症が収束しているかは分かりませんが、7箇所のキャンプが通常通り建国されて、参加者の皆さんに楽しんでいただけることを願っています。



SSPE青空の会2020キャンプ・・・今年はテレキャンプとなりました。

SSPE青空の会会長(甲府一高あおぞら会実行委員) 田伏純子

SSPE(亜急性硬化性全脳炎)青空の会では、2016年(3号棟が完成して50人規模の団体が宿泊できるようになった年)から、4年連続で、あおぞら共和国でサマーキャンプを開催してきました。それまで、公共の宿を使い、一般のお客さまの中で気を使いながらのキャンプでしたが、あおぞら共和国は全く気を使うことなく過ごせて、4年間、素晴らしいキャンプを開催できました。ところが2020年はこのコロナ禍!ただでさえ、重症の子どもたちを感染の危険にさらすことは出来ない。でも、一年に一度の楽しみの行事は何とか開催をと、知恵を絞ってZoomによるテレキャンプに切り替えました。開催してみたら、事前の不安を払拭してお釣りがくるくらい、楽しいテレキャンプとなりました。何より良かったのは、北は宮城から南は沖縄まで、遠方の患児・家族が参加できた事です。そして、それぞれの家庭で家族と一緒に過ごす患児たちの、生活感あふれる様子が垣間見られたことも大きな収穫でした。さらに、あおぞら共和国の現地に会員の一人が行って、ライブ配信を行いました。あおぞら共和国の敷地や建物、周辺の山々を紹介すると、沖縄や福岡から『わあー!行きたい!』『どうやったら行けるだろう?』の声が上がりました。『羽田・松本・静岡の空港までなら、OB会員が迎えに行きますよ!』との応援の声も。今年のサマーキャンプは、あおぞら共和国でのリアルキャンプとZoomで全国を結んでのテレキャンプのハイブリッド型が出来たらいいなあというのが今の願いです。

当会は「母の会」も“テレ母の会”で開催しました。沖縄や広島など遠方からの参加、なかなか会えない患児にも会えました。介護テクニックを共有したりと、リアル母の会以上の情報交換が来ています。リアル母の会は年一回だったのに、何回も“テレ母の会”を開催してしまいました。



コロナウイルスパンデミックについて(2020/12/27の時点で)

おぐちこどもクリニック院長(甲府一高あおぞら会実行委員) 小口弘毅

世界の関心事は何時コロナパンデミックが収束するのか、そしてワクチンは有効なのかに集約されますが、今のところ誰も正確に答えられる人はいません。そして、誰もが当事者となっています。やはり安全かつ有効なワクチンの大規模接種しかないでしょう。従来型ワクチンに代わって、全く新しい発想のmessenger RNAワクチン(以下mRNA)が開発されました。生体にとって必要なタンパク質を生成するための設計図は細胞核DNAの遺伝情報に書き込まれていますが、その情報は転写というプロセスでmRNAに写し取られます。次いでmRNAは核内から細胞質に移動し、mRNAの設計図を元に細胞質内のリボソーム(タンパク質製造工場)でタンパク質が合成され、細胞や組織で各種の機能を発揮します。mRNAワクチンではコロナウイルスの抗原として最も重要なスパイクタンパクの設計図であるmRNAそのものをワクチンとして利用します。mRNAワクチンは人間の細胞内に取り込まれ、リボソームでスパイクタンパクが合成されます。免疫システムはこのスパイクタンパクを異種タンパクと認識し、従来型のワクチンと同様にコロナウイルスに対する防御プロセスを活性化させ、抗体産生を促します。危機的状況回避するために米国では緊急時使用許可を得て、2020年12月すでに接種が始まっており、欧州連合各国でも接種が始まっています。全く新しい発想のワクチンであると同時に開発期間があまりにも短く安全性に危惧を持つ人が多いのも当然で、見切り発車という感はぬぐえません。しかし、この会報が届く頃には、mRNAワクチンを中心にコロナウイルスに対する様々なワクチンの効果が判明しているかもしれません。2021年の夏には日本でも多くの人々が接種を受けていることでしょう。

WHOが2020年3月にパンデミックを宣言した時点での感染者数(診断確定人数)はおよそ16万人でしたが、感染者数は現在では8,000万人、死者は175万人を超えています。死者の一人一人は、かけがえない命であることは言うまでもありませんが、思いもよらぬ死、しかも有効な治療法が無く、家族とも会うことが叶わない死の床は悲惨というしかありません。年報が皆様届けられる頃にはどのような状況になっているのでしょうか?重要なのは生き生きと暮らすことで生命力すなわち免疫力を高めることだと思います。早い時期に白州ウォークを会員の皆様と楽しみたいと心から願っています。

あおぞら共和国管理者より コロナ禍対策と利用上の注意

2020年の緊急事態宣言解除後、同年6月より利用者人数、1棟1家族等の施設使用制限付きで再開しましたが、その後の感染拡大状況により変更があります。利用前に確認してください。利用時はマスクの着用、体温測定や消毒、小児科のドクター監修の注意事項書等も、詳細はホームページにて確認を。<https://www.nanbyonet.or.jp/information/kyouwakoku.html>

あおぞら共和国のロッジ及び各施設の紹介

2020年度はコロナ禍で、イベントがほとんど中止になってしまいました。今年にあおぞら共和国の建物のご説明をします。中心のイラストは、プロジェクトが開始した時の構想図です。年々実現にむかっています。

あおぞら共和国は、対環境ポリシーとして、安全な開発、土地のDNA維持などを重視した設計を行い、エコシステム《太陽光発電器、蓄電池、太陽温水器など=1、2、3、4号棟は公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会から寄贈 5号棟は日本郵便株式会社(年賀寄付金)より助成》を導入しています。あおぞら共和国の各ロッジ及び建築の様子など甲府一高あおぞら会ホームページでご覧になれます。http://ymkp.net/aozora/20151209_tatemono.html

交流棟(小林登記念ホール) 2019年3月竣工

- ◆小林登先生=難病のこども支援活動の産みの親・東大名誉教授
国立小児病院名誉院長・難病ネット名誉会長
- ◆最大100名が利用可能 多目的ホール・事務室・配膳室
- ◆木像『母子像』(写真右)宇賀地洋子氏作
故相川公代様(甲府一高あおぞら会会員)の遺産よりご寄付
- ◆ステンドグラス『花と紅』高見俊雄氏作
- ◆油絵『エディス キャベル 山』後藤 久氏作



ロッジ1号棟 2014年竣工

- ◆2014年3月に、一番最初に建ったロッジ
- ◆定員 10名
- ◆1階-1LDK トイレ 風呂 洗面
- ◆2階-ロフト1室
- ◆この敷地にあった松材などを梁などに使用
- ◆暖房-電気式床暖房
- ◆主な寄付者:一般財団法人 日本メイスン財団



2号棟

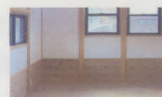


ロッジ2号棟 2014年竣工

- ◆定員 10名 ◆1階-1LDK トイレ 風呂 洗面
- ◆2階-ロフト2室(男女で分けることが可能)
2階には無窓(プライバシー保護)使用
- ◆暖房-薪ストーブ ◆主な寄付者:FITチャリティ・ラン



3号棟



ロッジ3号棟 2016年竣工

- ◆定員 20名 ◆1階-2LDK トイレ5室 風呂 洗面
- ◆2階-ロフト2室(男女で分けることが可能)
- ◆暖房-薪ストーブ ◆主な寄付者:TOOTH FAIRY

Kid's Box 2017年竣工

- ◆読書ルーム・遊び部屋・工作ルームで構成
- ◆引き出しの中に手作り積み木・楽器有
- ◆ホワイトボード設置-自由に絵が描ける

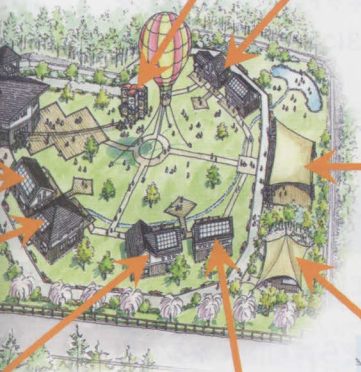


5号棟



ロッジ5号棟 2020年竣工

- ◆定員5名
- ◆1階-1LDK トイレ 風呂 洗面
- ◆2階-ロフト1室
- 設備-未完成
- 重度の障がいの方のケアに必要な設備を設置予定
- 介護用ベッド・入浴用リフトなど
- ◆主な寄付者:株式会社日ノ樹



野外ステージ

野外ステージ 2017年竣工

- ◆ステージ-幅8m×奥行5m
- 後方の壁は Horizontスクリーンとして使用可
- ◆バックヤード(約3坪)あり
- ◆スピーカー・照明利用可
- ◆主な寄付者:ザ・レジェンド・プロアマトーナメント



浴室棟



浴室棟 2014年竣工

- ◆敷地内の井戸水(天然水)使用
- ◆浴槽-4畳大、介助者といっしょに入浴可
- ◆床は杉材、壁はサワラ材を使用
- ◆主な寄付者:公益社団法人 24時間テレビチャリティー委員会



4号棟



ロッジ4号棟 2015年竣工

- ◆定員15名 ◆1階-1LDK トイレ 風呂 洗面 ◆2階-ロフト2室(男女で分けることが可能)
- ◆暖房-薪ストーブ
- ◆主な寄付者:ザ・レジェンド・プロアマトーナメント(実行委員の青木功氏、日野皓正氏が贈呈式にご参加)

あおぞら共和国の森

「あおぞら共和国」には、ロッジが建っている敷地以外に、ほぼ同じ面積の森が、ロッジのある敷地の北方向の対角線状に隣接(GoogleMap空撮参照)しています。この森は戦後の復興期に植林されたアカマツが20~30mの高さとなっており、人手も入らず、灌木類が生い茂る荒れた森になっていました。これを埼玉の森づくりグループ"栞"による遠征活動により、周回遊歩道を作るまでになっています。また散策の森のみでなく、積極的に薪として伐採、再度枝を成長させ、ロッジの薪ストーブ燃料供給源とし、太陽光+C02吸収~樹木成長~伐採燃焼消費の「あおぞら共和国」内でエネルギー循環システムを考えています。ウッドクラフトワークの材料集め、宝探しなどネーチャーゲーム、木の香や風を感じるツリーデッキを作り等、活用が考えられます。さらに現在、「夢」プロジェクト実行委員会の発案で、難病で亡くなったこどもを偲ぶため地元の樹木を植樹した、メモリアル空間を作ることも決まって、亡くなったこどもたちのネームプレートをつけた小さな石碑も設置する計画です。このように森活用の夢は膨らむのですが、それらを実現させるには、人手が必要です。これからは地元で里山づくりのボランティアグループを作り、地元の方と一緒に活動を楽しむ交流の場にしたいと思っています。コロナが落ち着いたら、賛同してくれる地元の方を探したいと考えています。難病ネット機関誌「がんばれ」vol184掲載 SSPE青空の会 みんなのふるさと"夢"プロジェクト実行委員(畑 秀二)の記事より抜粋



あおぞら共和国のご利用方法

「あおぞら共和国」を利用できる方は、①難病や障がいのある子どもとその家族 ②その関係者や支援者 ③難病ネット会員(正会員・賛助会員・購読会員)です。予約は原則として先着順で決定し、利用希望開始日が属する月の3ヵ月前の1日10:00から、宿泊希望日の前々日(前々日が土日・祝日の場合は直近の営業日)の17:00までの受付です。メールかFAXでのお申し込みになります。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、申し込み方法の変更や注意事項についても詳しくは、難病ネットのホームページをご覧ください。 <https://www.nanbyonet.or.jp/infomation/kyouwakoku.html> (本誌P3にも説明があります。)

"あおぞら共和国"の所在地 〒408-0136 山梨県北杜市白州町鳥原2913-134

電車でお越しの方:JR中央本線「小淵沢駅」よりタクシーで約10分 自動車でお越しの方:中央自動車道「小淵沢IC」より車で約15分

Q&A 皆様からの質問と回答

質問事項、ご提案を事務局までメールでお寄せください。ホームページに回答を掲載し、一部は年報に掲載いたします。

Q 障がいのある子がいる家族の日常をテレビで見ました。旅に出ても兄弟や親が大変です。あおぞら共和国に来る家族のお手伝いをするのはできるでしょうか? ボランティアの申し込み方法があれば教えてください。

A 難病ネットにお問い合わせいただくこととなりますが、現在は各家族へのお手伝いのボランティア募集を難病ネットはしていないようです。欧米のレスパイト施設では、ボランティアがたくさんついて、家族がいつもの介護から解放されるというのですが、まだ、そこまで整備されていないです。ただ、~親の会というような団体であれば、それぞれがボランティアを募集していると思いますので、難病ネット事務局にご連絡をお願いします。また、草刈りなどのボランティアは、毎年募集しておりますので、まず、草刈りにご参加いただき、そこでボランティア情報などを集めていただくのがいいと思います。

あおぞら共和国近くの『みどころ・あじどころ』 その5(毎号連載)

Kaikoma kitchen

国道20号の鳳来郵便局の裏にあるKaikoma kitchen。2020年1月にオープン。地元の食材を使ったパスタランチ&洋風居酒屋のお店です。あおぞら共和国から車で5分と近く何を食べても間違いなし。マスターご夫婦の人柄の良さが溢れた料理です。 <https://www.porta-y.jp/gourmet/95131>

【営業時間】ランチ 11:30~14:00(L.O 13:30)
パル (金・土・日のみ) 18:00~20:30(L.O 19:30)

【定休日】水曜日・木曜日

山梨県北杜市白州町下教来石 7-1 TEL:0551-45-6825



甲府一高あおぞら会の会務報告(紙上総会)

2020年はコロナ禍のため、あおぞら共和国での活動が全く出来ず、総会も開催を中止いたしました。今年度に限らず、甲府一高あおぞら会の総会は、あおぞら共和国での行事に合わせた開催のため、毎年決まった時期の開催は難しくなっております。そこで、毎年2月に発行する年報に、甲府一高あおぞら会の会務を報告し、総会に代えさせていただきます。会則の「正副会長改選は総会で承認」は、3月締め切りで、賛否を事務局にいただき、決定いたします。詳細報告はホームページに掲載いたします。

1、2020年の活動/会務報告

- ◆コロナ禍により、あおぞら共和国での会の活動、イベントへの参加/支援、同窓会での活動は出来ませんでした。実行委員会は2回(内1回はオンライン)開催し、随時メールにての連絡で対応しました。
- ◆**役員体制** 会長 露木和雄(S45)、副会長 軽石泰孝(S50)、事務局 山本秀彦(S41)、会計 田伏純子(S44)、監事 谷口百合子(S36)
実行委員 宇野由美子(S40)、雨宮俊彦(S45)、飯沼温子(S45)、小口弘毅(S45)、小口博(S47)、齋木裕子(S50)
保延義仁(S50)、青柳均(S51)、高橋久(S51)、岡亜佐子(S59)、上松裕之(H3)、保坂香子(H3)
(数字は甲府一高卒業年、Sは昭和、Hは平成です。) 次期(2021年～2023年)も本体制で臨みます。

◆2020年の会計報告(会計担当 田伏純子)

会計期間は会則変更に伴う経過期間のため、2020年4月～12月となっております。

1) 収入 = 合計 1,319,923 円 会費 = 1,008,000円 12月末の会員数409名 (会費納入者は336名)
寄付金 = 311,923円 寄付金、会員の皆様からの個別の寄付金

2) 支出 = 合計 72,111 円 事務費 = 72,111円 支払手数料、通信費

3) 支援金 = 1,247,812円 収入より、支出を差し引いた金額をあおぞら共和国への支援金として“夢”プロジェクト宛に振込みました。

今年度は、そのうち780,380円を、新しくできた5号棟(重症心身がい害の子どもたちが使いやすいように特化したロッジ)の介護用品代に使っていただきます。

2、会則の変更と実情に合わせた会務運営及び正副会長承認依頼について

- ◆会則の変更: 会費の納入開始を会計年度に合わせ、会計処理を簡略化するため、第9条の会計年度「4月1日～翌年3月31日」から、「1月1日～12月31日」といたします。
- ◆会務の運営について: 役員の任期は2年で、会発足2015年2月が起点なので、今期の任期は2021年1月までです。しかしそれに合わせての改選は難しいので、「新たな役員が就任するまで、前期の役員が会務を処理する」とします。
- ◆「正副会長の承認依頼」: 任期2021年2月～2023年1月の正副会長(1項役員体制参照)に異議の有る方は2021年3月までに事務局(巻末記載)にご連絡ください。承認の方は連絡不要です。

会費納入(会員の更新)とお知り合いの勧誘(新規入会)及び、支援のお願い

年報AOZORAに同封しております、ゆうちょ銀行の振込用紙にて、会費納入(会員の更新)をよろしくお願ひいたします。

- ◆会費納入先: ゆうちょ銀行 口座名: 甲府一高あおぞら会 口座番号 00110-9-323825
その他の振込方法は振込手数料自己負担となりますがホームページをご参照の上よろしくお願ひいたします。
http://ymkp.net/aozora/kaihi_nonyu.html

- ◆甲府一高同窓生に限らず、一般の方もご入会いただけます。ご友人等、ご紹介いただいた方に、事務局より、本会の紹介、加入申し込み用紙、会費振込用紙等をお送りいたします。事務局の連絡先は巻末のお問い合わせ先をご覧ください。

◆「あおぞら共和国」への支援は各種の方法で (http://ymkp.net/aozora/aozora_sienl.html)

1. あおぞら共和国の建設・運営母体である認定NPO法人「難病のこども支援全国ネットワーク」の会員となつていただく。本会入会時にその旨お伝えくだされば、本会会費は免除としております。
2. 個人名での随時寄付をご希望の方は
ゆうちょ銀行 加入者名: みんなのふるさと夢プロジェクト 口座番号: 00140-5-472963 にお振り込みください。
上記への支援は税法上の優遇処置の対象となり、確定申告時、税金の控除が受けられます。

今こそ、星をみあげましょう。

小口弘毅 実行委員より 高橋真理子さんをご紹介

北杜市を拠点に“星つむぎの村”を主催する高橋真理子さん(写真右中)の近著“人はなぜ星を見上げるのか“そして”すべての人に星空を”(写真右上)を参考に、会員の皆様にご紹介いたします。大学院でオーロラ研究を選んだ高橋さんは、純粋科学研究の道を選ばず、1997年に山梨県立科学館に就職し、サイエンスと社会の接点を作り出す活動へシフトしていきました。科学館では全く未経験のプラネタリウム担当となりました。本物の宇宙とプラネタリウムを繋ぎ、子どもたちの素朴な疑問に答えるために、オーロラ研究の経験が生かされたのです。彼女の発想はどんどん広がり、多くの人たちとの出会いに恵まれ、小児科医の犬飼先生との出会いは“病院がプラネタリウム”の活動に繋がっていきました。2016年に“星を介して、人と人をつなぎ、共に幸せをつくろう”と、“星つむぎの村”を立ち上げました。子供の病状によってはプラネタリウムが間に合わないことを経験し、プラネタリウムの映像と音声をネット配信する方式にたどり着き、ついに“フライングプラネタリウム”を始めました。すでに2015年に難病ネットとの交流が始まっており、2019年3月1日の交流棟完成式典にプラネタリウムを届けてくださり、難病の子どもたちは星空の美しさを体験しました。その夜は満天の星空で、極寒の中あおぞら共和国の庭に望遠鏡を設置し、実際に星空観察の手ほどきをしてくださいました。

わずか100年前、銀河が宇宙の全てと考えられていました。しかし今では、太陽系が属している銀河は無数に存在する銀河の一つに過ぎないことがわかっています。無限大の時空に広がる星空を眺めることで人は癒されます。あおぞら共和国の発展を願って、私たちはイギリスに世界で初めて誕生した子供ホスピス“ヘレンハウス”のサクセスストーリー“A House Called Helen”を翻訳し、2018年秋に“ヘレンハウス物語”を出版しました。その中の一節に“重い障がい児を抱え困難に立ち向うときに、私たちは星を見上げる必要がある”とあります。NICU(新生児集中治療室)で長く働いていた私は、生まれてから一歩も外に出たことのない子供たちに、太陽の光を浴び、外の美しい世界を見せてあげたいと願いました。星空を見せてあげたいという発想には至りませんでした。親にも子供にも星空を見上げる機会を提供する意義を今は理解できます。オーロラ研究に始めてずっと星を見上げてきた高橋さんは子どものsense of wonderを豊かに持つ素敵な女性です。これから高橋さんたち星つむぎの村人の力を借りて、あおぞら共和国が“星のふるさと”に変貌を遂げる事を願っています。最後になりますが、“人はなぜ星を見上げるのか”をお読みなつて、たまには星空を見上げて子供の頃を思い出しませんか?未知への憧れを大切に。



ほくは病院の壁をぶち抜いたけれど、高橋さんは天井をぶち抜いたんだね。二重窓文の窓から見える星空は、病院の天井から見える星空と違って、まるで本当の星空のようだ。



2019年4月あおぞら新緑祭りあおぞら共和国 交流棟にて—プラネタリウム(紺色の球体)の中に入ると、素敵な物語とともに星空が広がります。



甲府一高あおぞら会 実行委員

2020年12月31日現在の甲府一高あおぞら会の実行委員は以下のメンバーです。(数字は甲府一高卒業年、Sは昭和、Hは平成です) 実行委員を広く募集しています。山梨在住の方、50歳未満の方大歓迎です。

- 
会長
露木和雄(S45)
- 
副会長
軽石泰孝(S50)
- 
事務局
山本秀彦(S41)
- 
会計
田伏純子(S44)
- 
監事
谷口百合子(S36)
- 
 宇野由美子(S40)
- 
 雨宮俊彦(S45)
- 
 小口弘毅(S45)
- 
 飯沼温子(S45)
- 
 小口博(S47)
- 
 保延義仁(S50)
- 
 斎木裕子(S50)
- 
 高橋 久(S51)
- 
 青柳 均(S51)
- 
 岡 亜佐子(S59)
- 
 上松裕之(H3)
- 
 保坂香子(H3)

編集・発行・お問い合わせ

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会
FAX:042-786-4132 ホームページ: <http://www.ymkp.net/aozora/> 事務局mail: aozora@ymkp.net

ホームページとフェイスブック

入会のお申し込み以外にも、活動の様子、草刈りボランティアやイベントなどの日程や詳細は、ホームページとフェイスブックにてお知らせしています。チェックしていただき、活動にぜひご参加ください。



←ホームページ

